

平成二十五年度 高校生世代「人権の詩」
【入選】

R u n a w a y

鏡に映っている いつもの自分
目の前の壁が壊せなくて
そんな自分にむかっていた
いつのまにか 僕は逃げ出していた

もう一人の自分を 造りだすのは簡単だった
だけどそこから抜け出せなくて
僕の心を埋め尽くすのは 理解できないこの感情だけ

暗闇の中もがいて 出口を見つけようとして
何度もつまずいて 何度も腕をのびした
本当の自分がほしくて 本当の自分を求めて
見えない何かを 掴もうとしている僕の
叫び声だけが むなしく響いていた

自分の意見おし殺して 心に鍵をかけていたあの頃
出口を失った単語たちは 日がたつにつれ消えていった
そんな日々が辛かった
心の声は自分にしか分からない
自分から目をそらした僕は 孤独を選んでいた

この広い世界で 存在をけすように生きて
何も無いのに 悲しくてしかたなかった
本当の自分がほしくて 本当の自分を求めて
震える足で 歩き出そうとしている僕の
叫び声だけが むなしく響いていた

心の声を聞いてほしい でも同情はされたくない
いろんな感情ぶつかって 僕の頬を濡らしていくんだ

自分自身に勝ったら その先に待っているものは？
自分の未来は 自分で作りたい
出口のない感情迷路を 光を求めて歩き出した